



子ども大学かわごえ

CUK だより

第 71 号 NO.160107

平成 28 年 3 月 31 日

子ども大学かわごえ 第 8 期 第 6 回 授業記録

日時 : 2016 年 1 月 23 日(土) 14:00~16:00

場所 : 東京国際大学 第 1 キャンパス

テーマ : 2020 東京オリパラの主役は君だ!

東京国際大学 木原慎介 専任講師

みなさん、こんにちは。私は東京国際大学の教員をやっています。

今日のタイトルは「2020 東京オリパラの主役は君だ!」っていうことで、オリンピック・パラリンピックを略してオリパラと言っています。ところで今日の講義のタイトルで「主役は君だ!」って言っていますが、なんで僕が主役になるのですか。その点について今日は中心にお話していきたいと思います。

ちょっと自己紹介をさせていただこうと思います。私は体育が小学校ぐらいからずっと好きです。社会人になってから学校の体育の先生をずっとやってきました。今はこの大学で。将来体育の先生の免許を取りたいという学生を教えています。

ところで、学校では体育を学びますが、学校の体育には3つのかたまりがあります。

一つめは、「スポーツの変遷(へんせん)」、二つめが「学校体育とスポーツ振興(しんこう)」。変遷というのは移り変わり。振興とはどのように発展させていくかです。実際に中学校とか高校とかの授業でやられている授業例を紹介します。三つめで、みなさんがオリンピック・パラリンピックでどうやって主役になっていくのかって話を最後にしたいと思います。

最初に、ちょっと準備運動しましょう。これからすぐに授業に入るより、ちょっと準備運動したほうが頭も働くと思います。

さて、まずこの写真を見てください。中世ヨーロッパの写真で人たちの頭の上にボールが飛んでいます。何をしているところでしょうか。これはサッカー/ラグビーをしているところです。昔は、サッカーもラグビーも同じスポーツで、後でラグビーとサッカーに分かれました。最近では男性も女性もラグビーもサッカーもやりますね。女子サッカーなどでしこ(ジャパン)も相当活躍してます。目が不自由な方たちのブラインドサッカー、小学

校の体育でやるタグラグビー、海辺でやるビーチサッカーなどがありますね。



スポーツというのは昔からあって、元々の意味は「娯楽、遊び、楽しむ」です。古代オリンピックは、神様に捧げるためのお祭りでした。陸上競技やボクシングみたいな格闘技や、今はないんですけど、戦車競技っていうのもありました。

ちょっと時代が進んで、中世や近世とか呼ばれる時代になると、先ほどのフットボールやテニスの元祖が始まり、競技色の強いスポーツがどんどん出てきました。より速く、より高く、より強くをめざす、そんなスポーツが起ってきます。

近代オリンピックの第1回がギリシャのアテネで行われたのは1896年ですね。それがこの写真ですね。陸上の百メートル走。面白いのは、当時はいろんなスタートの形があったんだってことですね。今では小学校では立ったままスタートしますが、昔はクラウチングスタート(しゃがんでするスタート)や立ったままのスタートなどバラバラでした。



最近では、生涯スポーツと呼ばれるような考え方が入っています。ダンスや山登りやサーフィンとか身体を動かすのでスポーツとなっていますが、野外活動、キャンプとかもスポーツとしてとらえられています。

スポーツ振興法(しんこうほう)っていうのが1961年に出来ました。日本で初めて出来たスポーツに関する法律です。1964年に東京でオリンピックの開催が決まって、オリンピックを成功させることがこの法律の目的です。そのスポーツ振興法を元に、スポーツ振興基本計画っていうのが2000年に出来て、具体的な活動が開始されました。この計画が終わる頃の2010年にスポーツ庁というのが出来ました。



今、学校が目指しているものは「生涯にわたって豊かなスポーツライフを送ることができる力を身に付ける」ことで、それが小学校、中学校、高校を卒業した後の姿です。今みなさんは様々な動きを身に付ける時期、多くの運動を体験する時期ですね。体づくり運動、器械運動、陸上系の運動、水泳とかプール系の運動、表現運動、ボール運動をやっています。中学校では新たにダンスや武道が入ってきます。ダンスとか武道とかも必修という形で一度味わっておけば、後でやりたくなった時に役に立ちます。

スポーツライフって何なの？ただスポーツをすることだけじゃなくて、見たり、協力したり支え合ったりすることも、みんな含めてスポーツライフということです。ビデオを見てもらいます。画面にどんな人が映ってるかっていうのを探しながら見てください。サッカーの大会に対して関わっている人たちです。もちろん本田選手とか遠藤選手とかプレーしてますから分かりますよね。観客、「通訳」とか気付きましたか。当時の監督がザッケローニ監督で、外国語しかしゃべれないので、その方の隣には必ず通訳の人が付いています。警備員、審判、実況中継をしている人、ユニフォームとかボールとかスポーツ用品を売ってる会社の方とか、ドクター、グラウンドの整備員もいますね。スポーツを「する」という

ことは、いろんな関わり方があって、選手のように競技としてやっている人もいれば、表現とかレクリエーションとか健康に関していろんな「する」があるんですね。

「見る」というのも、たとえばスタジアムや沿道に行って直接選手の姿を「見る」っていうのも出来ます。一生のうちに1回来るか来ないか、そういうオリンピック・パラリンピックが4年半後に来ますから、これは何らかの形で生のものを見てほしい。

「支える」というのは本当に幅広く、先に挙げてもらったように、選手以外の人たちで、トレーナーやテレビ解説者、審判、研究者、伴走者（ばんそうしゃ）もいます。東京マラソンで伴走した78歳の女性は、マラソンを始めてまだ3年ですが、「感謝の日々」って背中に書いて走っていました。後で聞いたら「本当に今が青春、楽しくてしょうがない。だから私は参加して走ってます。」と答えました。同じく78歳の宮城県から来た女性はやはり「震災復興」と「絆」と書いたゼッケンを背中に張り付けて走っていました。



2012年の東京マラソンで実際に走った人が3万6千人。それ以外にも医師（43名）、トレーナー（73名）、展示ブース102団体の出演者数6100名、誘導員・警備員が5千名、ボランティアとして1万名が参加し、競技を支えました。

さて、スポーツの価値。スポーツの価値には3つあるということがIOC（国際オリンピック委員会）やJADA（日本アンチ・ドーピング機構）が言っています。

3つの価値の一つめは「Excellence（エクセレンス）」。自分を信じてベストを尽くす、自分を信じて最後まで諦めない。二つめが「Friendship（フレンドシップ）」。友情、仲間を信じること。三つめは「リスペクト・他者を尊敬すること」。



この三つの価値の一つめ「エクセレンス・自己を信じて最善を尽くす」ことの一つの例です。2014年、ソチオリンピック、フィギュアスケート競技で、浅田真央さんは金メダルが期待されるプレッシャーの中、ショートプログラムでまさかの16位となりました。翌日のフリーでは一転、完璧としか言いようのない演技を決め、結果的に6位入賞を果たしました。メダルが獲れなかったものの、これほど人々の記憶に残る演技はそうそうないのではないかとされています。世界中が感動の涙を流し、彼女の持つスピリットを賞賛しました。」

二つめの友情「フレンドシップ・仲間を信じること」。ロンドンオリンピックで、平泳ぎの第一人者で、世界でもオリンピック2連覇、金メダルをずっと獲り続けていた北島康介さんはさすがに往年の元気がなく、一人ではメダルを取れなかったのですが、日本代表のリレー（団体）の競泳で、ようやくメダルを獲ることが出来ました。一緒に泳いだ松田選手がインタビューに答えて、「康介さんを手ぶらで帰らせるわけにはいかないとがんばった」と話して友情の強さを感じさせました。

最後に「リスペクト・他者を尊敬すること」。ソチオリンピックのクロスカントリー競技で、転倒してスキーを折ってしまったロシア選手にカナダのコーチがスキー板を差し出したため、観客から賞賛の嵐が起きました。「スキーを折って苦しんでいる彼をそのままにしておくことが出来なかった。」というコーチにカナダの地元新聞が真の金メダルに値する

行為を演じたと報じました。まさにをオリンピック憲章で謳う「友情、連帯、フェアプレーの精神」を実行したものでした。



ところで、これ誰でしょう？この人の名前知ってる？惜しい、クーベルタン。オリンピックを作った人です。古代オリンピックじゃなくて、今につながる近代オリンピックです。第1回オリンピックはギリシャのアテネで行われました。当時19世紀末のヨーロッパでは、国同士の争いが絶えませんでした。クーベルタンは、スポーツを通して青少年の心や体を鍛えたい、そして世界中の若者が交流して平和な世界を築きたいと考えて、オリンピックを作りました。クーベルタンは、メダルとか記録とかじゃなくて国際親善と世界平和

のためにオリンピックを作りました。今度の東京オリンピックが第32回で、1回目の第18回東京オリンピックは1964年でした。オリンピックは大体4年おきにやっています。

この人の名前を知っていますか？グッドマンというお医者さんです。第2次世界大戦の間や戦後、傷を負った軍人たちの治療をずっとやっていた。その時に、身体的、精神的なリハビリにはスポーツが最適だなということに気がきました。そしてパラリンピックを興しました。

東京都教育委員会では、全部の学校、幼稚園、小学校、中学校、高校を含めて、今年の4月、から、オリンピック・パラリンピック教育をやっていくということが決まりました。埼玉でも推進委員会を昨年11月に立ち上げ、東京都と同じように小学校、中学校、高校でもオリンピック教育を行うようです。



最後にスポーツのテーマとして、「する、見る、支える」ということを伝えました。実際にやってみる、実際に見る、実際に支えるということ運動会やマラソン大会など学校の体育の授業の中でやってきました。学校卒業後も日常生活の中で、友達同士で公園へ行ったり、身近に行われるイベントに積極的に参加したり、見たり、支えたりしてほしいと思います。2020年にはオリパラが開催されます。オリパラへの関わり方を自分から見つけだして、見学に行くよい機会です。すてきなことが起きますよ。これで今日の私の授業をお終いにしたいと思います。

子ども大学かわごえ

学長 遠藤克弥

事務局

NPO法人子ども大学かわごえ

〒350-1109 川越市霞ヶ関北3-12-6

霞ヶ関北自治会館内



H-P <http://www.cuk.or.jp>

TEL 080-2053-2991 (事務局直通)

FAX 049-233-1640F

E_MAIL info@cuk.or.jp